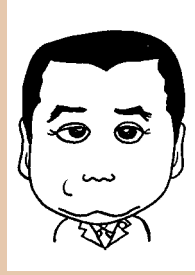


# 一般質問



## 仙北市農業の再生と 活性化の対策は 特産品の開発について

青柳宗五郎

### 質問

低迷を続けてきた日本経済の景気回復基調の中で著しく不審、衰退の続く本市の基幹産業である農業は減反の強化、米を始めとする農産物価格の下落低迷、農業従事者の高齢化と担い手不足等から先行きの見えない状況になる。

これらをどう再生、活性化をしていくか所見を伺いたい。

### 市長

仙北市の農業は広大な農地を持つ全国有数の農業を基幹産業としてきた地域であり、米を始めとした農産物の販売を伸ばす工夫が必要と考える。

米であれば特殊な栽培、野菜であればこの地にあった作物の栽培、その特徴を全国にアピールし販売をしていく。

そうした取り組みは始まっていると認識している。

### 質問

地域活性化の基本は地域人口の確保増大を図ることである。全国的な少子高齢化のなかで定住人口増は望めない状況であるが観光客をより多く呼び込むことで交流人口を増やすことはできる。

本市は県内でも恵まれた観光資源を有しており一年を通して多くの観光客が訪れるが大部分が通過型観光である。

これを市が中心となり地域の農林業団体、観光業者とのタイアップにより、これまでの自然景観や温泉地等の休息の場を充実させると共に伝統食品や郷土料理も単なる従来の繰り返しや他の真似だけでなく地域の持つ伝統的手法や農林産物の特長を最大限に活か

し創意工夫による地域独自の特産品として作り上げ来客に視覚と味覚の満足度を提供し、安らぎと潤いのある滞在型観光が一体的発展につながるものと考えているがどうか。

### 市長

特産品の開発については合併前の各町村でも取り組んできた。「ホウレン草麵」「栗焼酎」「山芋鍋」「サククラ麵」伝統的な保存食、林産物を使った加工品などがある。

旧西木村では、アケビの種子から抽出した液体を秋田大学へ成分分析を依頼している。

健康によい成分が含まれているとの報告があり今年も引き続き特産品になるよう研究を進めていきたい。

地元ソバの手打ちや地元農産物限定の食材を使った店、農家個人で加工施設を作り「おやき」「ゆべし」「漬物」等の加工販売が多くなってきた

ている。

角館観光協会では大手化粧品会社と共同で開発した「しだれ桜の香水」が好評を得ている。

行政としては流通のノウハウ、市場の開拓が課題と考えている。

### 質問

消費者の食に対する最大の関心事は安全性である。外国産の野菜等に使用されていると思われる防虫防腐剤、鮮度保持剤については消費者団体でも問題とされているところである。

健康を確保するにはその地域で作られた食物を食すること即ち地産地消が理想とされているが、市はどのような支

援をしていくのか。

食材を市場に出すにもあったが、中身の問題が大事であり直売所も増えている。

### 市長

市としては直売コーナーを広報、ホームページで広く知らせていく。

今後さらに地産地消を深め、美味しいと思ったものなければ人には進められないという観点から地元の方が食べられる環境を作り、最終的には地産地消にとどまらずそれを外部に出荷し、買っただけなければ産業として成り立たないものと考えている。



共同で開発した桜の香水